



人物志  
第五  
添下

2906  
572

ル 4  
4873  
5





2906  
572  
4288

4873  
5

和州舊跡函考目錄

第五卷 添下郡

山城大和國境

佐紀山

成務天皇陵

孝謙天皇陵

日葉酢媛陵

夏

超昇寺付 真如法親王事

念佛堂付 清海法師 ○曼陀羅 ○香烟小佛

牟城宮

神功皇后陵

鷹塚

高野

狹城池付 樹化雉成





洞小佛 ○廢之事 ○善測朝臣寺

菅原付 菅原氏 ○菅原池事

菅原天神社 菅原寺

菅原伏見陵二基 田道間守基

伏見 眞福后院付 新田能

事

靈山寺 新田部親王陵

唐招提寺付 金堂 叙迦 ○講堂 彌勒 ○食堂

○經藏 ○宵索堂 ○御 歎堂 ○鑑真和尚

○覺盛和尚 ○舍利奉

藥師寺付 金堂 藥師 ○造花會 ○講堂 寂勝會

○般若經會 ○万燈會 ○西院 ○東院 觀音

○東塔 ○西塔 ○食堂 ○傳法院 ○鎮守八幡

社 ○佛跡石 ○黑筒 ○拍子堂 ○降面 ○再真事

御在所 勝間田池

勝間田取橋 羅城門

藥園宮 植觀道場付 觀音事

義濃山二基陵 犬塚

赤持基 松尾寺付 鎮守社事

矢回寺付 地藏 ○滿米上人 ○小野篁事



東明寺

川上陵

西大寺 付 四天王 ○ 觀音堂 ○ 愛染堂 ○ 塔礎

○ 眞正菩薩 ○ 道場會 ○ 光明眞言會 ○ 再

眞 ○ 豐心丹 ○ 西大寺の柳の事

西隆尼寺

秋篠寺 付 香水井 ○ 後七日の御修法 ○ 再眞事

秋篠

高山八幡社

外山里 村國墓

延喜式神名帳

和列舊跡函考第五卷

流下郡

山内國のわたりて大和國の南にありてあり

ひらきひめ村よりなるなりあり

菅木の系をわたりあり

又當代流上郡春日乃流下郡にありてあり

とよりひめ人の流上流下の郡にありてあり

そとゆめ先ハ平城宮又古跡よりあり

系元乃新書よき奈良乃古系植槻これ

平城宮

平城宮の又ゆめ乃流下郡にあり



上郡西の湯下郡あり 三代 実胤 其後越後村二条あり  
 而も方八町あり今も九条乃此の条の事なり 柞平御  
 宮乃監饗ハ元明天皇和銅元年九月まがらうまの  
 幸ありて奈良と巡幸海しくまやと錢を賜ふべ  
 死地難と敷流あり十月伴勢太神宮に於て此の  
 幸錢うらひ給ふ奉幣使ハ正四位下大上皇を  
 十月菅系此の氏九十余家と仰まう此の給ふ  
 料として布又米等と給ひく後此祭とせさせ給ふ  
 流ま出とありて同三年三月平織宮より此の  
 一海民因難の爲まの正二位石上朝臣磨ありそ  
 乃流元明天皇ハ養老五年十二月よりこれさせ給ひ  
 元正天皇即位とせさせ給ひそれより聖武天皇  
 由ゆりとうけさせ給ひまは此宇天平十二年十

二月於て此の幸又あり伴勢太神宮ありびよ七  
 道乃徳神よ幣と有り新奈の幸流流をさせ給ふ  
 け時みち乃ちこれ宮とありて共懸とこの文よこと  
 びまは西の山城國聖世山乃ひぐとた系と西と  
 右系とせう乃山乃東の川よ橋とけられ同十  
 六年二月恭仁宮 その系の 乃ち此の乃大権を  
 と雅波乃宮よとこがめ流ふ志くれ在由心よるま  
 色ありざりまるあや同十七年四月徳目文人  
 本政宮よありていけ流まこよらざり給ひるんや  
 之宣下ありうまて曰大寺乃僧よ執ありうな  
 只事の系と難ありと執各りさ給ひ儀を同  
 して飲磨平織宮とさうも恭仁宮の市人  
 と目よ入て平織宮よありそひ行流平織宮よ



行幸あり去程より時うはりて廢帝天平宝字六年  
 又紀とくへりまきくあを乃保良の宮よはりし同  
 六年又平城文よ遷幸あり給ふ也あり右八續日中紀  
 よんくへりま後延暦七年於氏平安城長置より  
 流し給ひしより七十七年と終く平城宮乃終く田角  
 也ありまきより三代実徳よりへり和銅三年よ  
 上延寶七年迄凡九百七十七年也

藤原のまよこよりあつ乃まよようはり時あり及紀  
 あとゆりあつ乃家よの弟代よまはるかまへんまをたあま

依紀山

いひ光村乃西よありは山あつよりんあはる  
 きと依紀山也ゆより八雲山也あまへり  
 春日あり三益乃山よ月也あねも依紀山よまきなる櫛の花乃

八つ大紀

依紀山よ陵三四基ありそれ中よ神代皇族乃  
 陵とゆふのありゆへはまき乃出代の陵よあり  
 多むわりりごとく只陵乃在るまなよ記と後の人  
 のゆづめとまののこ

神代皇族陵

人王十六代神代皇族乃陵ハ大和玉添の粒あり  
 式 延喜  
 代使城角列陵也ゆ日本 又使城角列池上陵也  
 式 延喜  
 神代六十九年四月よ若也あり終く出く一  
 百歳同幸  
 十月は陵よりへりなる延寶七年海く凡一  
 千四百  
 八十年り今は陵とんるま年ありまきれがま  
 石楯土  
 とか埴輪草はり乃りげまのりり  
 叙日本紀曰埴輪山  
 乃り故りまよと也 史記陵よ勅使とてりり  
 八常の事







陵は納まらざるあり 日本 延寶七年迄凡一千四  
百九十年

鷹塚

神代皇后乃陵の南より多しびくあり

鷹塚の儀より金乃鷹と云ふ給ひしより  
名ありしとぞいふもいふもあらずは豊前國宇佐郡  
乃八幡菩薩ハ馬城峯ノ石神權現也あらず  
乃山の頂より石ありそれより金乃鷹と  
云ふあり給ひし仁徳天皇勅とて云光乃も  
云光乃せしめ給ふまは金乃鷹也現し給へ  
そこよ寶殿と云くらしききよし一  
起よんくしり光乃鷹乃八幡菩薩ハ神代皇后  
乃御子ありし皇孫の陵ハ八幡化尊乃金の鷹

と云ふと云へて御母子乃ありあび成りたるよ  
やう後乃人のあらしめ代々ののみ

孝謙天皇の陵

人王四十六代孝謙天皇乃陵ハ大和國深草の郡  
依貴郡高野山陵也 本紀 慶龜元年八月  
御葬あり給ふ也年六十三 本紀 延寶七年  
より高野天皇と云ふ又寶字孝謙稱徳天皇也  
色りなる 書 押し高野と云ふハ故式部以從二  
位鈴鹿王乃御宅とありしを勅よりして陵の地  
とありしより 延寶七年迄凡九百十年迄  
四と云ふなり 本紀 延寶七年迄凡九百十年迄

高野

高野の文乃長皇子と志貴皇子依紀乃文



よもむひめそび給ふ歎

万葉 秋されの今もなる如き徳は唐の如くさ野の衆人

見りてさば高野の野邊乃の日本系皆白妙の境より此 文選

日葉醜媛陵

日葉醜媛余乃陵ハ校本之寺間陵也 古書 ありて

依貴山もやありてむ只校本の名よりて書き

依り後の人西くささん事銭す川のそ柞日葉

醜媛余ハ景行天皇乃母也丹波至王乃むとあ

多り 紀 旧事 出仁天皇二十二年七月よ加つれさせ

給ふそ乃をうぬりする乃時群郷とめして勅あり

ゆけり人を陵乃めなりは埋める事ハむりの法を

ぐういりにけりハせんや野息宿禰とておて高市

郡ハ偽彦余乃陵ハいなる人と埋めりゆとゆか

あーいそくの末乃世よわるとたれ我はくえむと

れつら如き必乃如叙一百人とめをせめて人馬か

そびは種く乃地のから我々の人々をさるりのら

けむ乃如といなる人々を陵よけりてむよか

小乃かげなよりまはせんや天皇大ハ觀感御しく

て末の世乃あめともあまなりけり陵は直極乃なり

めよ侍まけ勤けりて本の姓とあつてあ如

長を給ふ是より如叙連等のハ天皇錢をうぬりのに

りて我をさるり 日本

狭城池

狭城池ハ倭よ水上乃池と云ふ卷田ハ橋縁起曰神

切皇原池上よなるぬりなるをさるりハ池上乃

池といふべふと水上池とあやなりてゆきや志る



史校據池ハ岳仁天皇三十一年十月ハ他里乃  
リ日本紀ヨアリ又楠波池トモ云  
▲神龜四年六月楠波池ヨリ颶風モクニシテ  
南苑ノ樹ニ吹折リテ其ノ樹化シテ龍ト  
ナリ

本紀日  
起昇寺

起昇寺ハ三代又藤勝寺 叙書少シクモリ真如法親  
王乃沖建立ナリ 三代 實録 天正年中ハ絶果ク今  
ハ龍ナリナリハ大日如来一纏アリビ  
ハ密法乃英風ヨク傳ヒクヨハ今ハ  
業ノ苗裔ヨクビナリ一村乃ノミヤカ  
村ノミヤカハ白鷺池トモ云ク英清宮トモ云ケ  
ルヤ史真如法親王ハ平城天皇御三乃御子高

岳親王也ヤナリ此御母ハ顯從三位保勝朝臣  
継子也大同年中乃モ多ク春文乃位ノガリ  
給ハ世乃人跡辰太子也申ナリ 三代 志アリテ  
後尚侍藤原藤子アリビハ兄乃仲成乃愛ナリ  
クリテ春宮トモ云ク 叙書 弘仁元年九月十二日  
御年七七ニシテ出クナリ御乃モ給ナリ 編年 東  
大寺ノ道詮律師ノ家ヨクモク 真如親王トモ云  
ナリ宗敷僧也乃禪林寺ニ居居ヨク同給ヒク  
ハ麻園乃名ノ水リ思思乃池トモ云ク此池園大徳ノ  
僧法院ヨクモクシテハ覺知一心乃悟成シテ弘  
法大師トモ云クハ真言宗トモ云ク給ヘリカ  
クモ智高僧乃人トモ云ク於此ニ住シテ  
久 撰集 真觀三年ハ卷四トモ云ク



よりり給へりけるは是は明師のてて天竺より  
 了給へり釈書ありて乃のみと後天の心ゆと感し給  
 ひくおゆくの寶代あえ給へりけるはそまじりて  
 とて給へりて一由りてて道乃月をよとて大梅の  
 成三のゆとあ給へりけるをそ宗教の海朝とて  
 友をひ給へり親まは思て給へりバのりていさ  
 ぬと給へりけるをそまじりて後天とて師の  
 よて給へりて虎の逢くくをまんととてそまじりて  
 おむよのあをそと我は是佛法乃のゆとあ  
 やまの事かこれとて湯杖とてあをへりこれと  
 ぬま懐くくをまじりてかのにるんゆととて  
 死に抄撰集又三代実録元亨抄書等とて大梅の  
 中権やゆと親王羅越國ゆとてて遂に遷化と

云 弘仁元年真如親王の落髪より 延寶七年迄凡  
 八百四十七年なり

念佛堂

念佛堂の西暦年中夏乃若の由を法海法師詠  
 昇寺の院内よ遠立あり西万陀の法師の月のこけ  
 七尺余ありて人より越く其の道とあのみ給ひて  
 いふり智ひをんち夫と控りりて真徳の乃  
 軍府ふらりありあす耐寺中よあすそひ歎事向  
 ありて清海法師のありあふにまらひと肩よ  
 けり三尺とてたよとてとてとてとてとてとて  
 けりて智の我のけりてとて佛の入今更む  
 ぬまのりて真徳の寺とてとてとてとてとてとて  
 ぬまのりて真徳の寺とてとてとてとてとてとて











物よりありとのせしきよりはやう乃をれ  
 の何りさ由とよこりたる物も又隆縁也  
 僧ハ伏見乃仙人の物とぞや侍り  
 菅原天神  
 顯注  
 密劫

菅原院ハ之律乃由所是ありそふ志書ゆきとそ  
 菅原相ハ之やこころ律乃なる後よ平安海ゆて  
 おほひのちの兵山のやうらひと律ゆて聖願よあ  
 死とと或説よあり

菅原寺 寺領三十石

菅原寺ハ又喜光のちも小行基菩薩の造り  
 して法院乃坐像と安座とてせ聖武天皇行  
 幸ありしときよ如来光明のちあり給ひしより  
 喜光の物あり元和元年仲のちも或和尙のち

てく盤纏とそづきりまつよち任乃僧く物よりせ  
 経行けりし一和尙乃速書よらんより史行基若  
 薩ハ志氏いけその西大郡の人あり天平十七年  
 大僧正の位に給ふよ任行基より下由より天平  
 二十一年四月大菩薩と給ふより一和尙よん  
 より又の流あり靈異神験ありよ物きくお侍り時  
 乃人行基菩薩と云類聚國史あり同年二月二日  
 けちの東南院ゆてとつりせと同年八十二  
 己延寶七年ゆぐ九百十六年り

伊弉山乃物

新初撰  
 伊弉山乃物とよとつりしを造戒乃物  
 此の月久くをれと人ともゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 續後撰  
 伊弉山乃物とよとつりしを造戒乃物

菅原伏見陵二基











後撰

あまつらり乃被ハあまそあるなり又  
 菅原也伏見乃これよらん後とば是よ由ふ亦被ハ出  
 二れうハ葛上郡乃伏見とらあるなり海江郡  
 乃伏見よりハ水被ハ出ハ山ハ三輪山よるなり  
 ころてらんハ葛上郡よりハ物部山打丸  
 ころりあり

真福屋院 伏見也の南

真福屋院ハ同社ハ弘文院じり一國能法師とふ  
 あり信譽山よのかりて相あふふは暗純中て教  
 授れ一つハは法院と稱ぶふハ法師とより天  
 和五亥夜祭の伏見の人あり一ハ其の里乃弘文院  
 又文六の業師乃像ありハの法師其身乃如來と  
 おり海せあへと百目もちて乃擗願とぞ立むる月

目小鎖とゆへされハ行を忘る旨よと海りて流よ  
 廣野中て法師の言ハ衆をよみら阿波池乃  
 其衆三十名文殊をハの爲被ハ授けと授けと  
 後年ハ中七の二月晦日朝乃うごの枕ふらと  
 りぬ心胸あてり中て二七日とるころその後  
 くれ中て野中よあつれどもとものりけとされ  
 高松やがらむと月八日ハ獲生して極楽園とる  
 経びハ地獄乃ちととんむる也我仁年元年寅廿  
 四日よとの記書其の後年久く流て寺もありし  
 がひりの屋あり田地とあつて草屋成しむびて  
 ともろり天正年中寺成と流ひハより阿彌陀堂と  
 ころハ弘文院乃流とれとぞとらむる年終く  
 真福屋院とありとめころり寺後寺領關山あり



くとも更なる寛永年中より同領二百石とて延つる  
寛文年の初儀上程のの員間寺の西北より底  
くより

是より西より靈山寺あり延分寺の北の北  
又は屋院の南より新田部親王乃陵あり

靈山寺 寺領百石

鼻高山靈山寺ハ行基菩薩乃寺創鼻高と理し  
より山号あり又海羅門菩薩と行基菩薩と  
一めてあひ添ふ乃村号山乃新田の寺よりなり  
て一の徳教よりあそりへくはる寺あり 縁やう乃  
秘佛と安恵より零落乃後弘安二年再興あり  
西乃くより行基菩薩乃寺乃底あり

新田部親王陵

新田部親王乃陵ハ後小蓬兼くより親王乃陵なり  
なりよりハ振提寺の回化よりありとぞ親王ハ天長天  
皇乃御子御母ハ五百重姫 紀日本 天平七年より  
後小それより延寶七年より九百石後六年の

唐振提寺 遠東村の南に領三百石真言兼宗

唐振提寺よりある建初律寺と云ふ孝懐天皇乃勅  
額よりはくく唐振提寺の存あり 起 柞苗寺ハ天平  
實字三年八月鑑真大僧正聖良天皇御代よりあり  
所よりより御影割ありは此ハ新田部親王乃回宅  
よりありと大僧正より御影割ありはくく 遊兵河り  
七年迄凡九百石一年の

徳堂



▲金堂にもありありの僧如實（起録）とてまゝく丈六の釈迦の像成るとも（私）その意中二千佛とてまゝく皆後よ二千鉢三千佛と繪ぐた脇乃座うり此集ハもろこの思徳乃他た脇の子も觀もまの薩ハ天人の所造（起録）あり

▲講堂ハ平休の朝集殿と於て造受あり亦勸業薩役侍の二菩薩もろありの法力乃他あり（私）

▲食堂ハ藤乃仲公の家と於てありまゝくあり（私）經藏ハもろこの義靜建立して佛舍利堂（私）菩薩經論寶物等（私）よまゝく延（私）納（私）り書賢釋法師

法護師家のつありまゝく大慈四千二百卷と書寫して納とれ（私）あり（私）書資治長（私）寫大慈

▲胃索堂ハ藤清河家と施して不空胃索像女（私）

八部神象成とてまゝくあり（私）書

▲淨觀堂ハもろこの思徳はなりて鑑真の遺像（私）

▲西方院の阿彌陀堂ハ中真開山大悲菩薩乃廟也（私）

▲開山鑑真和尚ハもろこの揚列龍真寺乃大徳ありも（私）

ろあり天寶二年入唐乃僧（私）榮（私）業（私）行（私）亦和尚とてまゝく

めて了佛法東流ハ我本國（私）ありまゝく是と傳ゆる師あり和尚日本（私）のむよりり教化とあり（私）

和尚ありけまゝく揚列ハ船とてあり海（私）上（私）ありり

よこられり風とてあり波とありり船ハ其とてひるやまゝくありまゝく和尚念佛とてありり人かかぢうしてまゝく死とありり後七年と終（私）







給ひしよりさうのちよりりて千人のおとあよあひ  
けりやあり 後水和尚乃遺言よゆを唐招提寺八如實  
法藏義靜亦任寺よりりや佛法傳通記よりり  
▲中興開山覺盛又名窮情上人和尚 四條院仁治年中よ  
宮中よめし菩薩戒と受けさせ給ひく三朝因  
師乃号と給り建長元年五月十九日よりり  
後深草院の御宇大悲菩薩之後乃位とて由ひ  
けりとぞ 起

▲佛舍利三千粒 仏法傳通記 是寺中一乃寶物ありは名  
利ハ鑑真和尚乃將來其來朝の時海路凡ありく  
密舟はよゆきくもんとあつとあけいり  
とよと作天とほとあ海よ金鳥飛来く艦船と  
やゆんといけり鐵魚うりてあく擲る船りしり

多る所なりとありの事とぞよあつとありなり  
龍舟乃佛舍利とけりぐらよとありめ佛法弘  
通の海路るまばあふりらあ人紀とて則  
舍利と海よ入れぬまばあり時風ありよ日本  
土よはりより板橋徳寺建立の後う海あり  
佛舍利といそり海産乃寶とせんやとりんさ  
えあつととそ和尚大畏なりとせよび真言  
佛一三密則是乃深秘ととあつれまは龍宮  
海あり身ととありは新神と他しは寺あり  
水よ深とあく舍利とけりなりありしり水  
と龍池と名けり社代まき舍利の護神とて輪蓋  
龍王と名をよ付より日毎乃午の時よ舍利あり  
ひく文信長今年よ海とて白淨衣乃龍あり



平らぎも振れとまらきり乃龍律の化人ありと伝通記  
桓武天皇二十年四月振花寺より宮内省とて之を撰撰ひ  
て律と撰撰まへり四分律一部七十卷 疏疏一部十卷 毘尼毘尼  
經一部八十卷 涅槃經一部九卷 大集經一部九卷 摩訶  
般若波羅蜜經一部九卷 在備前國 是ハ智藏物の  
十三町 在備前國 水田六十町 在越前國 是ハ智藏物の  
ありと賞あはれり帝王 文徳天皇仁壽三  
年十月田代百七番八町四段三百廿三歩傳法回傳法回給  
由り文徳實錄實錄ありし人への戒律戒律さりの事事あ  
まらぎて抄抄へり

振花寺の南乃抄抄ハ茶師寺あり  
藥師寺 寺領三百石

茶師寺ハ天皇天皇白鳳九年類聚國史又東塔銘等ハ  
年又振花抄ニ天智元年云

十一月皇居皇居やまひ抄抄ハ海りくさ色ハ天皇茶師  
如來法如來法より堂塔堂塔成成とせんとせんと神神ありてありて二百僧と  
傳傳養養一一條條ハ一一ふ忽忽よよ多多ののううららをを撰撰中中日本  
紀紀よよ見見るるここりりをを比比伽伽藍藍乃乃撰撰様様ととるる人人のの撰撰連連  
和尙和尙入入定定してして龍龍宮宮のの伽伽藍藍ののううららににりり一一卷卷圖圖を  
撰撰るる歡歡感感ありありてて遠遠矣矣乃乃勅勅定定ありあり書書志志りり手手下下も  
ののままりり御御遠遠矣矣ととありありりりてて天天武武天天皇皇清清和和系系乃  
交交ぬぬてて龍龍池池ののううららをを撰撰ひひ交交先先帝帝のの御御遺遺勅勅をを撰撰ひひ  
ととてと持持統統天天皇皇十十一一年年茶茶師師のの開開眼眼ありあり日本日本本本紀紀文文紀紀  
武武天天皇皇二二年年十十月月茶茶師師寺寺ととありあり後後日日本本紀紀或或ハ  
元年元年書書けけたた時時ハハ西西のの必必高高市市郡郡本本紀紀本本紀紀或或ハ  
師師寺寺ととありあり後後元元正正天皇天皇應應光光二二年年のの事事ととありあり茶  
師師よりより傳傳下下のの教教存存系系六六系系のの二二坊坊よりより撰撰りり之之けけりり今



の菖師寺是あり起自鳳九年より延寶七年迄  
凡一千年又類老二年より凡九百七十一年

法堂

▲金堂乃菖師如來八天武天皇乃御於十二夜女神

觀音菩薩二軀一軀ハ孝徳天皇御一軀ハ木尾天皇御是菖師如來八天

帝郡本菖師より車ゆきて引きまら七日後迄て

は寺よ此迄終りし佛起あり又の祝よ菖菖師

寺乃知りし金盃山といふあり菖師乃佛と稱す

あり而も武祀より是より是堂ゆきて遠祀舎あ

利嘉美二年より是より二月一日より七日迄より

とて是の今よ是起菖師

▲菖師室ありて菖勝舎代とてありしは是を柗菖

勝舎八件起佛師といふあり起和天皇天長六年

六月廿一日は金堂よりとて是の記巻圖と稱す同

五月十四日執符あり起懷慶園乃寺田七十町と

乃舎の料よりとて繪表菖勝舎起聖年八月より

てせりといふ起史又の祝三月廿一日より女

七日まで行ひし起佛起あり起仁明天皇和

年中は宣旨ありて三月七日よりとて十三日

よとつる恒例とて是表菖勝舎起菖師七布衣

料ハ絹二疋綿起襦袢布女端起は月一合起肉起紫

よりとつる起西起抄起より起後花園院起文

安二年起突上起の後起は舎退起佛起より起固起は大殺起若經

舎毎年七月廿三日よりとて廿九日よとつる儀

式ハ延喜式よりとつるあり又起慈達大徳起の年起毎起よ

は起より起萬燈起舎起書起り起は起め起て起は起三舎起の起終



て其のまをりしり

西院八合人親王元明天皇御建元長元年七月十二日

大地震よく起

東院又東御院ともいふ養老元年九月六日長屋

親王乃由造立本寺観音菩薩ハ孝徳天皇御造

建その後雷火よそこふりれく修補しり

弘安二年三月十一日又修理あり

備内親王元明天皇乃由あり養老年中

遠くともいひり起け堂ハ折あり

今あり

東塔ハ天平二年三月よ起て書今あり西塔各

十一丈六尺起西塔ハ光仁天皇十一年正月雷火よ

焼失り本紀再興の後長二年八月廿八日よ又

炎上の後ハ再興とあり

あり孝徳天皇乃由あり

その中御堂を築く師棟和尚乃宏壯麗妙の乘

師の詞を著しあり

鎮守ハ橋社ハ西と休息乃也ともいふ

衆取守依ハ橋の産河勧徳して

園よやあり

の貞観元年行教和尚大安寺ハ八幡菩薩

はあり

佛の石金堂乃あり西の草むらり

あり







獲生して人よ傳へて後又うせよとの中子の上府  
生来高とそひひるの晴遠が先祖の舞人の家も還  
成樂のありてあまうさきとゆりありてと名づもて室  
代是をほくえりりるるがまは南都の寶物とて  
ありとて中ゆと十割抄ありてはらう乃智とてもて  
ありきるも

▲貴上の人王六十四代圓融院天延元年二月廿七  
日信堂一時の多ありとありそれの中よ金堂一宇の  
神鎮礼宗為身と炎よあがはる色かたつた會の  
清るそまのりた終よ夫とてえく金堂はくがこ  
ありり記書は熱四よかり律法ハ三河の徳師礼  
宗ハ大和の徳師とるん記の宮高と終つり三月  
六日寅檢乃初使ハたが源朝臣住持とり同共ハ

日一宇と一西の役とて修造せられたり九ヶ箇  
よ宣下ありしは年改終く寛和三年正月八日よ  
ちのめて極致つるのそ進りり廿一年改終く長和二  
年よ成就も寺家の別高慈禪大徳の修造あり  
極又のまご信堂成就せありよ永祿元年八月十三  
日乃夜大風金堂乃上の重閣と吹おとすり別高  
平越律師修造してものごとく延人王百三代後花  
園院文安二年炎上りりその年極立乃儀式ありと  
よともことありごとく教十年改終く  
金堂と兼真より又百八代後陽成院長二年五月  
廿八日慈舞ちのあふり乃若夫よかりて多ありと  
専長のま兼真のり棟木の端よありとぞ  
やうち成よある







九年十一月依皇太后病遣某師与是别被池乃说云  
林 神中抄曰勝間田池とバ水絶つらうと傳まどえ  
是の何とお傳むりの親王乃見給むし奉某師ち乃立  
えより此記とせん色知らう又某師ち此記も  
えだるの西乃池とてい并むらり凡の書きりり  
乃造のあんぬ知人乃中傳り一いのみ寺乃近記行よ  
傳りとぞうけ経つ記と中記と違ひくふらむと傳記新  
田部親王の天武天皇中七皇子あり天牟七年九  
月よ薨とらるる云文武天皇二年高市郡也  
くちとてそら元正天皇親老二年よ保の郡  
奈良より此記とあり

良玉 初瀬へはりきりふ勝間田乃池見て  
朽もつらるるに勝間田乃池と云ふは道安

伏藤野仲折花臨水と云ふ題とて

勝間田乃池をみりよるあり成る柳のうけなるて  
乃池よ水が記人時人まひく勝間田乃池  
清作と異名よひひりともや今案じうは  
水ありきりや古伝と

勝間田乃池よとて云ふとて傳記のよもよもよと云ふは

勝間田歌橋

勝間田乃池の橋れはももら記に記す也世よ由記  
は記の記よあるもや又幾代由記よあるも後人  
あつとあり記と

山や道乃記りとありとて記すは記とて記すあり  
は記の記書よ幾代由勝間田乃湯とありと云



羅城門

門乃松の傍に基とありらるのせに羅城門  
行宮天正年中田の中よりつと人の居た  
ゆより羅城門乃流ありと云や平徳宮の  
り南よありまじり

鑑志 和尙来乃乃時志くくは西よと云ん  
又天正十九年六月西乃のりもありては  
志と我 續日 本紀

薬園宮

舊地ハ那山は徳内もありは徳道の所也  
うはくくくくきん徳町やう町は徳町  
ありと云うはくくくく徳町あり今  
室乃文と云ありは西の舊園と云ん

は西ハ天正勝宝元年ハ南乃薬園の新文ありて  
大掌舎ありと云ありは徳町の續日本紀ありて  
より一ヶ代と云て薬園乃右のとありは徳町の  
やうありと云ハ徳の地とありゆとに平徳宮  
より南よありまじり

植槻道場

侍町ハ徳町の西よありは徳町の續日本紀ありて  
植槻乃道場ハ和洞二年十月徳海公秋の徳達  
とありは徳町の徳摩舎と云ありは徳町の徳  
高代安雲の観音菩薩の本像ありて房前大臣  
教乃侍志度寺乃観音ありと云ありは徳町の  
徳町の西よありは徳町の徳摩舎と云ありは徳町の徳



十二年戌申年むくは植柳ありたりは住むり  
人あり大徳の画像二尺の寸の形とあり敷とあり  
へふく住しありしやまひしが史婦ありありて  
後むまあひよりぞ住むるころぐ垣の影うらや  
ましく丹書乃多錢ありやまきし壁の影のゆりつ  
てゆふぐら白粉ありりりまより印は雨乃り風  
乃ま記すもゆふく人色ありしとありしはゆげり  
まりにけはよ大徳乃像もむらひる人ぞこのりきり世  
よまむくうあやありきんとありたりとありたり  
ゆここありたりと枕乃夜も色くさあまきつ面は紅  
粉を顔にも椒乳乃笑より色ありしとありしは  
騎と帯とありしもの柳髪乃まればりきにありし  
ハサハヒとんふの御存乃りきもまらりよまらり

ゆり別き乃曉のまればりきとありしはゆげり  
乃りけり借老のむらびよりありしとありしはゆげり  
里ゆりまねく乃ありしもの元ぬま記りよ蓮の意  
浅ゆその風もまきし竹の影とありしは又心色ひら  
るゆまありきんまらとありしとありしはゆげり  
ゆまの調しゆまをまらとありしとありしはゆげり  
こいあまをりけりゆ記まのあまありしはゆげり  
大徳のまへはゆげりてぞありしはゆげり相如り破壁  
の風まきし劉仲が乾鍋は湯薬はまらとありしは今  
のゆまはゆまをゆまのゆまのゆまのゆまのゆま  
門まらとありしはゆまのゆまのゆまのゆまのゆま  
人まらとありしはゆまのゆまのゆまのゆまのゆま  
まらとありしはゆまのゆまのゆまのゆまのゆま

一  
一  
一



て唐氏温も心ありてそまてうめけり人の人よまねぬ  
まゝよまねありてそまてうめけり人の人よまねぬ  
まゝよまねありてそまてうめけり人の人よまねぬ  
まゝよまねありてそまてうめけり人の人よまねぬ  
まゝよまねありてそまてうめけり人の人よまねぬ  
まゝよまねありてそまてうめけり人の人よまねぬ  
まゝよまねありてそまてうめけり人の人よまねぬ  
まゝよまねありてそまてうめけり人の人よまねぬ  
まゝよまねありてそまてうめけり人の人よまねぬ  
まゝよまねありてそまてうめけり人の人よまねぬ

茂濃山二基陵 植槻の南

山は茂乃西代の陵もあつていざいざいざいざいざいと  
いざいざいざいざいざいざいざいざいざいざいと

犬塚

いぬはらうハ聖徳太子の白雪丸とあつていざいざいざいと  
いざいざいざいざいざいざいざいざいざいざいと

赤檮基

赤檮ハ物部守屋と射たりて人ありていざいざいざいと  
いざいざいざいざいざいざいざいざいざいざいと

松尾寺 小泉村の岬乃山

松尾寺 延喜 西松尾寺又山号ハ補陀洛山ハ山乃  
いざいざいざいざいざいざいざいざいざいざいと

白立の像とよ人絶りあり  
いざいざいざいざいざいざいざいざいざいざいと

社あり寺徑乃僧けやうあハ山嶽五松尾と同神と  
いざいざいざいざいざいざいざいざいざいざいと



よまのりや 新日本紀より

矢田寺 杉尾寺の北

金剛山寺 俗に矢田寺と云ふ 書堂塔ありあり本

寺ハ地蔵菩薩あり 天武天皇乃勅新開山ハ地蔵

僧正 延暦元年七月よりあり 一ノノヨリ

玄奘三藏ハ唯識と云ふハ地蔵乃後白鳳元年

三月僧正より 書抄地蔵菩薩ハむけ寺ハ地蔵

満乘上人と云 飛行やんばるハ地蔵とあり 地蔵

と仰檀乃ちよりあり 堂ハ云々あり 地蔵

中ハ朝廷よりありありありありありありありあり

よぞありありありありありありありありありあり

乃世の成生 鬼室一ノその鬼よりありありありあり

と云々ありありありありありありありありありあり

戒と云々ありありありありありありありありありあり

友ハ戒業純淨乃人ありと云々ありありありありあり

よびと云々ありありありありありありありありありあり

事ゆりとり上人ありありありありありありありあり

瑞雲よりありありありありありありありありありあり

寛五よりありありありありありありありありありあり

あふりハ布後よりありありありありありありありあり

んんこ我 瑞乃れ 別業王上人 戒將て行給

ひーが 忽ハ阿鼻 地獄よりありありありありありあり

門乃 風洞金の 焰を吹あびりせ山 虎 剣の 枝と

序ハ 鉢池ハ 血乃ちありと云々ありありありありあり

成生よりありありありありありありありありありあり

新日本紀

三



よころろありそりひあまのまもりも三衣と海と  
 ひろくろく草よとあつらふと之は我の是地蔵  
 菩薩ありなま生乃若よりりてく乃ろくを  
 うく海は道でも無縁の存生はまらあまたあり  
 汝安婆世因よりりて我の縁とひとぐあよ又  
 くのをとろく事とくま上人指しして立  
 らるよ冥夜よりり乃若く河と上人よなる  
 相安婆世因よりりて乃若とひくまの白米  
 みちよりりともよまきくひくまの白米に生  
 涯くやま書 汝はくは地蔵と遠立とんとて  
 舟工とゆき記の建ハ化人乃ろりて化り  
 きるとも長六尺今まを地蔵と事あり  
 上人のり乃若と遠立の白米と事あり

後ハ満米上人とぞり記釈書

▲小野堂ハ拳守の具仁壽三年ハ新を年六十七

長六尺二寸破軍星乃化人小野 糸畠

東明寺 夫田ちの死

鴻巣山東明ちハ舍人親王乃河建立やう妙果と安

墨り

河上陵 東明寺のうら

小和村乃安よ陵又あり記塚とんて

あり富緒川の川上を建バりあまやゆと

乃陵あらんり

川上陵ハ海や乃玉添り郡もあり贈白屋藤原

中川上乃陵と延喜式よりきり

西大寺 小和村の死寺領三百石



西大寺ハ孝徳天皇乃勅天牟勝宝元年  
 十一年御り十七日御詔云々天牟神儀元年  
 ありぬ抄本 孝徳天皇ハ高野天皇ノ御  
 事不詳野寺とも云ふ又仁明天皇ハ高野寺  
 ありぬ抄本 孝徳天皇乃勅天牟勝宝元年  
 御詔云々天牟神儀元年  
 史開山ハ新ノ常勝也云々武宗流ノ事  
 云々後実教僧都云々後三後宗云々  
 二代澄誠天皇弘仁六年ノ事  
 十代文徳天皇武承天三年ノ事  
 傳ハ新書二三卷ノ事  
 四天王ハ長七尺ノ洞像あり天牟神儀元年  
 乃四天王是也

ありて七尺ノ洞像あり天牟神儀元年  
 行幸あり朕ハ切勅云々  
 佛道あり云々  
 乃四天王是也

▲觀音堂ハ延寶二年ノ建  
 立像ハ鳥羽院乃御詔云々  
 乃四天王是也



像ハとゆへり海にありて我

▲愛深堂は愛深明王ハ他人乃假とをいさむる也

弘仁四年七月廿日蒙右降伏乃出ありあり

彼免恭心西大寺よりひびくをやく降伏の法と総

とべ記より毎三よおまぐり碎まらよあやくして真正

菩薩の男山八幡宮ありて七層敷七檀乃心より

儀摩乃よりい定よもち鈴乃新八山試うごう侍

僧八百人の修法乃声乃の毛監てをせまけり満る

敷の成射よ鎗矢西とゆいて能行終よ太宰府坊

多金法ありて異賊と射法より終よ明王乃持

抱の夫らとくくんとさり後ハ明王よ持抱の

夫ありとどとちやけ射乃僧衣ありびよ修法乃新

三卷男山八幡宮よ奉納ありとぞ同之

起

▲塔乃礎ハ礎乃あり而之よりよあざらありとど

寶龜元年二月西大寺東塔乃少人の衣より

一丈余ありと九尺ありと東大寺のひく飯盛山

よとあわわく家より引せり射より鳴りありあり

やしみおぼやめさるより一室下ありよりとあち

情全くくく霊衣ありてとそらけは禰ありん

とちあうバや記屋ぶるん記とそあゆく乃藪と

つと火とけ酒とそかこりてに三十名よとそり

終よ燦燦として行くとありて後ハ道乃とそり

よありきりゆ終ありとどして帝山ありやみき

海一それハ石乃まらうとあそめと序石

ひらひ澤地よありありとそり

本紀今東

あり

あり



▲真正菩薩乃開八真院と云ふ西大寺貞觀二年  
 乃回録より後く二百七十八年神宗て嘉禎二  
 年真正菩薩文より新く申真開基と云ふ録  
 之の教旨恩山上人と云ふ侍りが正安二年  
 壬七月三日真正菩薩と謚し給ひし、帝王抑  
 真正菩薩八年十一而て家法を多き醍醐山春  
 賢乃宝よ入てうらあり、秘教と由ありあり  
 之の鑑定の法と云ふひく、律戒と志のゾまりよ  
 世の戒師やありありせん嘉禎二年同志四人  
 之成りありありとて、具足戒乃正觀と云う  
 け律儀乃紀絶と云ふ法も後ふそれより西大寺  
 より存て戒法さうりあり寛元三年法華の  
 文選小沙弥戒と云ふ所より建長元年は同の

乃慈善寫り大比丘戒と云ふ所より、  
 法華の法華の比丘戒乃ありと云ふ事、  
 必よ新く禁断乃とて奉一千三百六十ヶ所  
 叔又文應上皇真正菩薩と云ふ也、  
 宮中よめて菩薩の大戒と云ふ所より、  
 此と云ふ戒と云ふ所より、  
 五百九十余ヶ寺、  
 とりりと云ふ事、  
 ▲道成會ハ三月十五日儀式延喜式よりあり、  
 比より後、  
 七ヶ目光明の言と勸修と云ふ文、  
 ちごまりけしと云ふ

▲寛上の義和十三年十二月十一日

續日本 又貞觀 後紀



乃大目でりよ西大寺の綱がらうとあけおほるる  
 意より後出がらうとありあう意きるより真觀の  
 官符よのぞうきこり帝王又真觀二年よ炎上  
起文龜年中炎上起再真乃の成しとぞ

▲豊心丹儀よ西大寺とよふけち傳奉乃妙方あり武  
 人曰西大寺豊心丹ハ律師道宣よりあり永徽元  
 年よ昆沙門天王より補心丹乃方とらきとぞ此  
 今秘劇とあゆりとい傳祖統記よ乃らこり西大寺  
 豊心丹是よてこそ傳らめ道宣乃傳方衛院  
 よよあるとこり傳らも醫書よ補心丹ハのせ  
 て人是と志まらり豊心丹ハ別方と傳はる傳方  
 武人よりきるハ島山乃あふりハ西人河内紀傳  
 乃あふと領ぞらきり時ありあり乃秘方とあハ

りとの秘書しよ豊心丹乃方とぞりて記をせり  
 島山乃家の秘方とあまらゆりガ後西大寺乃大元  
 軍場ハ心のそら記ありけ切勳よそそ豊心丹  
 乃方成表ありより記三百石とそんハけりしとれ  
 々るよりけ記祿島山の家ありと我関傳傳  
 記  
 ▲西大寺乃柳乃流ハ寺より東をきまらぎ色乃あり  
 とらひははるる

西乃大寺の柳流ハあふ  
古今あきみより系よりけて白藤とよまきなる春柳僧正  
夫木ありともと西の大寺をむかきあふ神ハやりかぞせ殿富門  
院大捕

西隆尼寺  
 西隆尼乃流はごうあうぞ西大寺の乾子



及ク衣と云ふ所ありあまうり乃西也

西隆尼寺の高野天皇乃山草創西大寺乃衣僧乃  
法衣と流灌乃西ありと我三代

秋篠寺 西大寺乃北寺鎮百石真言宗

秋篠寺の葉師如來と安室と光仁植氏と帝乃勅

記香水開山の善珠僧正と或宗流よりくつりけ

僧正の唯識宗流由ぶは心乃くつり事と云ふ

因明論よりひくは由ありてはあく期ありと延

曆十六年四月よりとつり年七十五書

香水の寺内より井あり舟好りの祠とありて

鹿とつり常より人乃事法云はそのもや成り

ぬるよ山嶽玉小栗極乃常曉阿耨梨より

よつり花梅より大徳元照より太元師乃靈像

秘法代りけは此海洲乃後小栗極乃法林より

しては法代と云ふひか給ひり

けやうく如來よりあり曉乃あり成りし給ひり

井乃うちより大元明玉乃親像よりへく常曉のこ

りよつりけり給ひりやそきより後七日乃山修法

ハ常曉阿耨梨と云ふ是く香水記より

そき山修法の監觸ハ兼和元年弘法天師より

く乃肉道場よりあそりて宮中より言院とこ

てく曼陀羅と修法と云ふあり勅許より

由せ毎正月一七日修りてとありて鎮護

國家五穀豐饒乃ありて中より後七日乃山修法

是あり續日本後紀秋書は奏狀ハ性靈集よりあり

その後大元秘法と修法と云ふと常曉阿耨梨奏圖成



延和七年の勅行あり後日本恒例  
平家常曉乃事後紀秋乃法あり  
物語常曉乃事秋書秋乃法あり

▲當寺の保延元年六月に炎上す後再興あり

秋篠

勲字石所集よ平群郡とあり添の郡あり

壬二 草根

伊弉山あり草根伊弉山あり草根

伊弉山あり草根伊弉山あり草根

外山里

新古今

秋の山乃里や耐るん伊弉山の雲は西行法師

高山八幡外山里のちるる乾

添下の郡高山の儀宮の聖武天皇をお國守佐郡  
廣懐乃八幡菩薩と東大寺よお國守佐郡  
伊弉山あり草根伊弉山あり草根  
よやーろーと今よありと武元武元のそりあり  
お國守つらありは耐るん伊弉山の雲は西行法師  
その類よ八幡神と平群郡よお國守佐郡  
伊弉山あり草根伊弉山あり草根  
伊弉山あり草根伊弉山あり草根

村園墓

村園の墓や海女の墓下郡あり贈正一位安  
信命婦乃墓と延喜式延喜式あり

延喜式神后儀添下郡十座大四座 小六座

矢田坐久志玉比古神社二座



菅原比賣神社二座

菅原神社

菅田神社

伊射奈岐神社

依紀神社

登跡神社

添御縣坐神社

和列舊跡函考卷五終



